

巨大物流ルートを活用した企業誘致を



おおい しゅんいち
大井 俊一 議員



A トップセールスを進める

- Q** 吉岡町は、世界的な巨大物流ルートとして期待される関越自動車道にインターチェンジを持ち、北関東自動車道からの物流にも好位置に立地する。これを活用した企業誘致の方針は。
- A** 世界的企業が日本本社を群馬県内に移す動きを、大きなチャンスと捉え、強い決意をもってトップセールスを進めていく。



将来世界的な巨大物流ルートの中継点として期待したい

- Q** 中学生のボランティア活動に参加することは、人格形成の面でとても重要だと考えるが、ボランティアの場の提供について町はどのように考えるか。
- A** 今後も多くの活動の場が提供できるよう、周知の拡充をしていきたいと考えている。
- Q** 吉岡町の児童・生徒の各種活動への応援バス利用状況は。
- A** 必要があれば、町のマイクロバスの利用もできる。応援で、一体感や連帯感を深め、感動や興奮を共有し、思い出に残る体験となり、目標を持って練習する意欲の向上に寄与する。
- Q** 地域の無形文化の継承についてはどのように考えているか。
- A** 地域の伝統行事を継承していくことは、人と人とのつながりを生み出したり、古い文化を未来へつなぐという点で素晴らしいことだと考えている。

アフターコロナのスポーツ振興は 住民総参加事業の研究を進める

- Q** アフターコロナのスポーツ振興は、心と体の健康づくりに寄与すること、町民の仲間づくり、地域のチームワーク育成、新住民と社交性を持った交流、高齢者の介護予防、子どもの成長促進が見込まれるが。
- A** 幼児から高齢者を対象にスポーツ教室・講習会・大会などを実施。「住民総参加型のスポーツプログラム」や「性別や年代などに関係なく多くの住民が参加できるプログラム」などの研究を進めていきたい。
- Q** 町道の損傷箇所が散見されるが、計画的な整備は。
- A** 自治会からの要望などに照らし合わせて、道路長寿命化計画に位置づけ、町内全域で舗装補修工事を実施している。



計画的補修を待つ町道

開発プロジェクトチームの 結成は



いづか けんじ
飯塚 憲治 議員



A 現体制での業務執行を行う

Q 増え続ける子ども子育て業務・産業団地開発・クリーンエネルギー拠点構想・吉岡バイパス延伸対応・漆原総社線建設など、山積する業務対応には、開発担当プロジェクトチームが必要ではないか。

A 現組織体制でも、各課連携を取りながら、柔軟な対応が取れている。引き続き、現体制での業務執行を行う。今後も事業進捗を確認し、各課間で協調し進めていく。

Q 上越線・川久保踏切東側、この付近一帯の地域開発の進展状況は。

A 新規の産業団地の構想であり、地域・内容などは決定されていない。町として、新規産業団地と位置づけた後、計画を進める予定。

Q 県道前橋伊香保線、(仮称) 杉下交差点から西へ上野田への延伸に向けて、今後の戦略は。

A 町の都市計画道路見直し結果では、当該道路の機能は重要であり、整備が必要な道路と認識している。現状は宮東交差点から1.3kmの道路建設が最優先であり、その進捗を見ながら引き続き県に要望していく。



建設決定が望まれる、高渋バイパスから
(仮称) 杉下交差点への入口

※ネーミングライツ

施設やイベントを命名できる権利のことです。この権利を獲得することにより、地域貢献によるイメージアップが期待でき、高い宣伝効果を得ることができます。

桜並木 今後のより良い管理方策は 有効な方策を検討する

Q サイクリングロードを彩る桜並木。今後のより良い管理方策は。

A 町も良好な景観を維持したいと考えている。河川管理者・道路管理者と管理の区分・方法を確認し、今後の方策を考える。また、桜並木里親の会は住民自治の観点から非常に重要と認識。支援策は同会との意見交換を通し、活動継続に有効な方策を考える。



雑木を整理した後のサイクリングロード

Q スポンサーは宣伝と社会貢献・自治体は収入源を確保、両者両得の※ネーミングライツの実施、本町も取り組むべきではないか。

A 本町でも財源確保は重要課題。一定の効果と課題はあるが、公共施設の管理・財源確保の方策として慎重に検討していく。

Q 努力に成果が十分伴わないふるさと納税、一旦原点に立ち返り、町内各方面の協力を得て再度、増収増益の道を見いだすべきでは。

A 今までの努力が現在に至っているものであり、ここまでご協力いただいた事業者さまにも失礼になるところだが、幅広く意見を聞き、改善点を見いだしていく。

給食費の無償化 早く決断すべき



こいけ はるお
小池 春雄 議員



A 今後も一定の負担を求めたい

Q 学校給食費の無償化では近隣市町村を含む県内の多くの自治体がすでに完全無償化をしている。「子どもを育てるなら吉岡町」と言っているが、保護者の生活も厳しくなっていく一方で議会でも毎年要望している。早く決断すべきだと思うが。

A 今後も一定の負担を求めていきたい。



県内自治体の多くが給食費を無償化している

Q 保育料の完全無償化は。

A 現在のところ考えていない。

高校通学援助制度 半額補助を 利用状況や金額など含め検討

Q 高校生に対する通学援助制度で隣の榛東村が半額まで補助との報道があった。吉岡町では最高で2000円。榛東村並みに上げるべきと思うが。

A 利用状況や金額なども含め経済的負担軽減に向け検討したい。

Q GIGAスクール構想についての講演会があり、吉岡町・榛東村・渋川市とそれぞれの後援で実施されたので私も行ってきた。その中で、特に私が聞いてなるほどと思ったことが何点あった。人間は3次元の世界を五感で捉えることで発達すると言われている。それに対し、

2次元のデジタル画面でそれをしてしまうと、体の動きなどにも影響が生じるとのこと。スウェーデンの文献では、基本的運動能力は低下、前回りや片足立ちができない、生活面では、結び目を作れない、はさみをまっすぐに切れないなど3次元の動作が難しくなるとある。ただ悪いばかりではなく、デジタル教材の音声の読み上げ機能も、もともと読み書きが苦手な子どもに非常に役立つ。GIGAスクール構想は、メリットもデメリットもあることを承知して取り組まねばと思うが。

A 学習用情報端末を使えば学力が伸長する、考えが深まるということでは決していない。多様な子どもたちの一人一人の主体的・対話的で深い学びの実現こそが資質・能力の育成につながっていくもの。適切な指導計画や学習環境の設定、子どもの活動や表現したことの丁寧な見取りと支援といった学びの専門職としての役割は極めて重要であり、不可欠であることはGIGAスクール構想の前から普遍であり不易なもの考える。

Q 魚の住める河川整備を。

A 河川管理者は県なのでしっかり話をつなげていきたい。



魚の住める河川整備を

子どもの学力面での 課題への対応は



さ か た か ず ひ ろ
坂田 一広 議員



A 教科特有の見方・考え方を深める授業改善

Q 国の GIGA スクール構想により、町の教育環境が大きく変化して、5年目を迎えようとしている。児童・生徒の学力や学びに対する姿勢についての成果と課題は。

A 学力は、最新の CRT テストの結果で、全国平均を 100 とすると、平均を上回ることばもちろん、122 という驚くべき値を示す教科もある。子どもが主体的に自分で考え、それを表現しようとする活動を意識した授業実践で学んだ成果と考える。課題は、成長段階に応じて教科特有の見方・考え方を深めていくような授業改善を図ることなどがある。



子どもが主体的に考える授業実践が行われている

Q 町の不登校児童・生徒の数はどのように推移しているか。

A 令和6年度は1月までの状況で、2.0% となっており、令和5年度より改善されている。また、国の不登校割合と比較すると、町の割合は低い状況が続いている。

Q 不登校児童・生徒の努力の成果を適切に評価し、学びの充実を推進することは重要であるとする。不登校児童・生徒の成績評価は。

※ライドシェア

自家用車や運行事業者所有の車両を利用して有償で他人を運ぶ配車サービスのことです。

A 文科省の通知に基づき、条件が整う場合には、児童・生徒の学習に対する取り組みを積極的に評価し、後の進路選択の際に不利になることのないよう最大限の配慮をしている。

Q 公共交通マスタープランの改定にあたり、^{しんちよく}現行プランでの施策の進捗状況は。

A 施策のうち取り組みができたのは、2割から3割程度であり、その成果も十分ではない。都市計画マスタープラン改定の中で公共交通マスタープランについても議論し、自動車以外の移動手段の検討や公共交通施策について、町民の移動状況に適した取り組みや近隣市町村と連携した取り組みも含めて検討したい。

ライドシェアについてどう考えるか

移動手段の一つとして検討したい

Q 国交省では、交通空白解消本部を設置して、※ライドシェアについて国内の普及を相当熱心に図ろうとしている。町への働きかけは。

A 群馬運輸支局長らが町長を訪問し、交通空白解消に向けた制度を説明。ライドシェアについても意見交換。移動手段のひとつとして、都市計画マスタープランの改定の中で検討したい。



桐生市のライドシェア車両